

大阪大学図書館報

Vol. 19 No.4 Dec 1985 (昭和60)

目 次

○当面の問題点

○日 程

○製本管理システムについて

○教官著作寄贈図書

当 面 の 問 題 点

伊藤利根太郎

今年の4月1日に中之島分館長に任命されてからもう7ヵ月以上たった。分館長という職務が仲々の激職であることは兼々心得ていたつもりであるが、御承知の通り中之島分館は現在重大な課題を抱えている。そのために分館長に就任してからの7ヵ月あまりは、無我夢中のうちに経過してしまったような気がする。医学部、同附属病院およびその関連施設の吹田地区への移転と共に中之島分館も吹田地区に移転しなければならない。そして単なる移転でも相当な大問題であるのに、移転を機として「生物系図書館」として新たに発足するという構想がすでに定められているのであるから、その大事業たるや思い知るべしである。では何処に難しい問題があるのか、いささか私見を述べてみたい。

図書館を管理運営する側の人々のほとんどすべてが次の様な考え方をしているに違いない。それは「図書館が扱う学術情報資源は、すべての研究者の共有資源であるから、常にその最も効率的な利用を図らなければならない」。そしてそのためには「学術情報の流通・提供はできるだけ一元化し、組織的に行うべきである」という理念であろう。即ち近代的設備を完備した図書館にできるかぎり図書資料を集中しなければ、迅速で適切なサービスはし難いということになる。しかし図書資料を利用する側の人々は恐らくこれとは反対の希望を持っていると思わなければならない。即ち「図書資料はできるかぎり手許に置きたい。少なくとも自分の部局・施設の同一建物の中に置いて、わずかの時間で利用できることが望ましい」といういわば分散型思考であろう。そこで、集中か分散か、どのように両者をうまく調和させて無理のない意見の一致を導き出すかという問題が生れてくることになる。

中之島分館が誕生したのが昭和35年であるからもう4半世紀たったことになる。そして21世紀まであと15年となった今、生物系図書館への発展という重大な問題に直面しているわけ

である。こういう機会は滅多にないのであるから、理想的な図書館の設立を念じて、中之島分館運営委員をはじめ、関係諸賢とじっくり話し合いながら計画を練り上げて行きたいと考えている次第である。

私が外国で比較的永く研究に従事したのはタイの国立ウイルス研究所と国立らい研究所、それにインドのアグラにある「JALMAらい研究・訓練センター」である。これらのどの施設でも図書資料が貧弱なことには大分苦勞させられたものである。しかし規模の小さな研究施設が十分な図書資料を備えるということは大変難しいので、努めて最寄りの大学の図書館を利用することにし、また現地の友人達にもそれをすすめてきた。最近になってタイの国立らい研究所長さんに図書資料の整備に関して日本から援助が得られないだろうかという相談を受けたことがあるが、その時もバンコク市内にあるチュラロンコン大学の図書館をうまく利用する方法を確立する方がベターでしょうと答えておいた。

本年11月末に中国の広州（広東）の郊外にある平州という所にらい研究・訓練センターが誕生するので、これを訪問することになっている。何とかして時間を作って広州にある大学の図書館を見学し、その利用法について平州の研究者と話し合って見たいと考えている。

昭和60年11月15日

（いとうとねたろう 微生物病研究所 教授）

製本管理システムについて

開発までの経緯

製本管理システムは、昭和58年に阪大側で詳細な要求仕様の検討にはいり、昭和59年2月に日電側に要求仕様書を提出しました。同年11月から機能仕様の検討を日電側と阪大側とではじめ、最終的に昭和60年1月末をもって機能仕様をかためました。6月から受入テストにはいり、7月1日より新システムによる業務を開始し、8月中旬新システムのすべてのリリースを終えました。

目的

製本管理システムではつぎのことを実現しようとして開発されました。一つは、製本業務に関する支払関係書類を出力し、トータルな支払処理を行うこと。一つは、所蔵管理サブシステムに必要な製本雑誌の明細データを持ったレコードを蔵書マスタに登録すること。一つは、製本直後の移動についてその処理をすること。

製本管理と雑誌受付システム

製本管理システムは、雑誌受付システムで入力された受付データを使用して、製本データを作成します。

雑誌受付システムでは、到着した雑誌の巻号あるいは通号・出版年などを電算機に入力します。この入力されたデータは支払関係の明細・品名などに使われますが、同時にこの巻号等は、雑誌所蔵DBの更新に使用され、日々の受付がそのまま何巻何号を持っているかという所蔵のデータを更新していて、常に最新情報を提供することが出来ます。

製本管理では、この日々の受付データを使って、何を製本するのかということを電算機に知らせてやります。すなわち、受付システムで入力されている雑誌については、製本管理で新たに入力することなく自動的にデータを作成することができます。機械入力による受付をしていない雑誌は、この製本管理サブシステムで新たに入力することで製本業務を行うことが出来るようバイパスも用意しました。

とりまとめ作業と製本単位の入力

製本するには、まず第一にどれとどれを一つに製本するのかというとりまとめを決定します。つぎに、とりまとめた結果、すなわち、製本単位を電算機に指示してやります。

とりまとめは、電算機のうえではどの受付データとどの受付データを一つに製本するのかを決定することとなります。入力は画面を見ながら準備リストに基づいて行います。製本単位の指示は同リスト上の一連番号による指示ですので、巻号などの入力は不要です。この一連番号による指示では実現出来ない微調整については別の画面で可能です。

機械入力で受付していないものは、全巻IPFに必要な事項を登録することを前提にして、この微調整画面によって可能です。

発注・検収

発注は予算コード・部局などで指定してひとまとめに行うことができます。製本の寄託簿は発注処理のあと起動するとセンターの日本語高速レーザープリンターに出力されます。本館分館には、発注処理により配信データが作成され翌朝配信されます。

検収は、従来の図書検収画面でも簡単に処理できますが、発注番号の何番から何番までという指定で数百冊あるいは千冊くらいまとめて処理するバッチ検収も可能です。

所蔵管理システムと製本管理

所蔵管理システムは、図書館資料の管理換・供用換・公用貸出・廃棄等を管理するものです。製本雑誌もこのような所蔵の管理の対象となります。

製本雑誌が移動したときは、雑誌所蔵DBを更新して、現状を常に掌握しておかねばなりません。そのためには、その移動した製本雑誌が何巻何号から何巻何号までを製本したものであり、何巻何号から何巻何号までが移動したのかを知る必要があります。

この巻号レベルでの明細は、製本管理システムが受付データから取ってきて製本ファイルを介して、所蔵管理システムの管理下にある蔵書マスタにわたしてやる必要があります。それにより、製本雑誌の所蔵移動の生じたとき所蔵DBの削除・登録はこの明細データにより処理することができます。このようにして、製本雑誌が移動したときに生じる所蔵の変更という、重要であり、また煩雑な業務が自動的に正確に処理できるようになりました。

所蔵管理というような大きな仕事を機械的に処理して労力を削減するためには、入力部門

でマニュアル作業以上の注意力を必要とします。製本管理サブシステムは、その意味では従来の処理に比べるとより正確な処理が要求され、全巻 I P F の補正とかの周辺整備が従来以上に要求されるシステムです。このシステムは、電算機を導入するということでのその入力部門により高い比率の人的労力をそそぐ必要があるということの一事例となりました。

(学術情報掛)

教官著作寄贈図書

——本館——

宮本 又次 (経・名誉教授)

大阪万華鏡

(ブレーンセンター 昭60)

宮本 又次 (経・名誉教授)

近世大阪の経済町制

(文献出版 昭60)

山田 信夫 (文・名誉教授)

草原とオアシス 2冊

(講談社 昭60)

古川 顯 (教養部・助教授)

現代日本の金融分析

(東洋経済新報社 昭60)

田村 進一 (基・助教授)

人口知能の世界：コンピュータに関心あるすべての人のために

(技術評論社 昭60)

久貴 忠彦 (法・教授)

民法読本 3 (第2版)

(有斐閣 昭60)

小林 融弘 (基・助手)

現代を聖書に問う 3冊

(新教出版社 昭60)

——基礎工学部図書分室——

三井 利夫 (基・教授)

生物物理学序説

(共立出版 昭58)

吉森 昭夫 (基・教授)

Dynamical processes and ordering on solid surfaces: proceedings of the 7th Taniguchi Symposium, Kashikojima,

Japan, Sept. 10-14, 1984/editors,

A. Yoshimori and M. Tsukuda.

Berlin; Springer, 1985. (Springer series in solid-state sciences; 59)

末田 正 (基・教授)

光エレクトロニクス

(昭晃堂 昭60)

レーザーと未来社会

(三田出版会 昭60)

張 紀久夫 (基・助教授)

固体物理の基礎

(丸善 昭60)

増田 祥三・小川 和英 (教・各助教授)

ステレオ・グラフィックス：理工学モデルに見る空間幾何

(森北出版 昭58)

——中之島分館——

青野 敏博 (医・助教授)

図説プロラクタン

(医歯薬出版 昭60)

女性と乳房

(同朋舎出版 昭59)

和田 博

医学要点双書 6：薬理学

(金芳堂 昭60)

——吹田分館——

池田 和義 (工・教授)

力学への招待：微積分の基礎から彗星の運動まで

(現代数学社 昭60)

田口 久治 (工・教授)

微生物学基礎講座 第7巻：微生物培養
工学

(共立出版 昭60)

■■■■■■日 程■■■■■■

60. 8. 21~23 医学図書館員研究集会 (第20回) (自治医科大学)
60. 9. 5 生物系図書館ワーキング・グループ第1回会合 (中之島分館)
60. 9. 24 図書館ネットワーク専門委員会 (東京大学文献情報センター)
60. 9. 24 吹田地区運営委員会外国雑誌検討小委員会 (吹田分館)
60. 9. 27 生物系図書館ワーキング・グループ第2回会合 (中之島分館)
60. 9. 30 } 第5回国際医学図書館会議 (日本学会館)
10. 4 }
60. 10. 3 第18回国公立大学図書館協力委員会 (関西学院大学)
60. 10. 11 吹田地区運営委員会外国雑誌検討小委員会 (吹田分館)
60. 10. 14 近畿地区国公立大学図書館協議会第10回館長・事務(部・課)長連絡会議
(共済会館やまと)
60. 10. 17 昭和60年度国立大学附属図書館事務部長会議 (弘前大学)
- 18
60. 10. 18 近畿地区国公立大学図書館協議会図書館施設に関する研究集会 (関西大学)
60. 10. 21 日本医学図書館協会理事会・評議員会 (60年度第2回) (日本学会館)
60. 10. 22 生物系図書館ワーキング・グループ第3回会合 (微生物病研究所)
60. 10. 23 中之島分館図書選定小委員会 (昭和60年度第2回) (中之島分館)
60. 10. 31 学術雑誌総合目録欧文編データ記入説明会 (基礎工学部大講義室)
60. 11. 5 } 昭和60年度大学図書館職員講習会 (基礎工学部国際棟)
- 8 }
60. 11. 14 第18回国立七大学附属図書館部課長会議 (大阪ガーデンパレス)
60. 11. 14 昭和59年次国立七大学附属図書館協議会 (大阪ガーデンパレス)
60. 11. 15 昭和61年度国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会 (第1回)
(大阪ガーデンパレス)
60. 11. 15 国立大学図書館協議会合同理事会 (昭和60年度第2回理事会及び昭和60年度
第1回常務理事会) (大阪ガーデンパレス)
60. 11. 29 第5回東京大学文献情報センター・シンポジウム (大阪大学講堂)

大阪大学図書館報 Vol. 19, No. 4 通巻82号 昭和60年12月1日発行

発行所 大阪大学附属図書館 〒560 豊中市待兼山町1の1 ☎ 06(844)1151 内線2355